



発行所 安芸郡芸西村 芸西病院 TEL 0887(33)3833
発行責任者 山崎一明 http://okura-kai.com/geisei/



新年のご挨拶

医療法人おくら会 理事長

藤戸良輔



年余り続く国のコロナ対策は大きな節目を迎えました。医療・介護の現場で毎日の業務にあたるスタッフに心より感謝を申し上げます。

本人選手初となる本塁打王に輝きました。また投手としてはシーズン終盤に右肘靭帯を損傷して途中で終了となりましたが、それでも10勝を挙げた活躍をしました。結果同氏が今シーズンのMVPを受賞しました。暗いニュースが多い中、私以外にも大谷選手に元気をもらった人は大勢いたはずで。

大きな生活の変化を起こした新型コロナウイルス禍の危機から、世の中は少しずつ動いてきています。今年は新たな成功を目指して、何かに挑戦するのに最適な「甲辰」です。なかにはその挑戦が成果につながらないこともあるかもしれませんが、くさらずに努力を続ければ水面下で着実に育ち、次につながると言えるでしょう。

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えの事とお慶び申し上げます。旧年中は、多くのご支援ご協力を賜りありがとうございました。

また昨年は野球のWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）が3月におこなわれしました。予選リーグから負け知らずの日本は、アメリカとの決勝に勝利し3大会ぶり3回目の優勝を果たしました。現役メジャーリーガーも参加した本大会はこれ以上ないほどのドラマティックな結末を迎えました。大会のMVPに輝いた大谷選手がロサンゼルス・エンゼルスチームメイトを三振にした最後の1球（鋭く曲がるスライダー）がとて印象に残りました。その後行われた米大リーグ（MLB）でも大谷選手は打者として44本塁打を記録し、日

さて、2024年は「甲辰」です。「辰」は竜（龍）のことでもあり、十二支の中で唯一の空想上の生きもので、権力や隆盛の象徴であることから、出世や権力に大きく関わる年といわれています。また2024年は十干では「甲」にあたるため、「甲辰（きのえたつ）」の年となります。「甲」は十干（甲乙丙丁壬癸）の始まりであり、物事の始まりといわれています。この二

つが合わさる「甲辰（きのえたつ）」は、新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になるといった、縁起のよい年になると考えられています。ちなみに前回の「甲辰」である1964年はアジア初となる東京オリンピックが開催され、世界初の高速鉄道「東海道新幹線」が開業した年であります。

昨年をふり返りますと、5月8日より新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行しました。法律に基づいた外出自粛の要請などはなくなり、感染対策は個人の判断に委ねられるほか、幅広い医療機関での患者の受け入れを目指すなど、3

その後行われた米大リーグ（MLB）でも大谷選手は打者として44本塁打を記録し、日

つが合わさる「甲辰（きのえたつ）」は、新しいことを始めて成功する、いままで準備してきたことが形になるといった、縁起のよい年になると考えられています。ちなみに前回の「甲辰」である1964年はアジア初となる東京オリンピックが開催され、世界初の高速鉄道「東海道新幹線」が開業した年であります。

皆様にとって新しい年が素晴らしい年でありますよう祈念いたしまして、私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。



外来診察担当医

令和5年11月1日

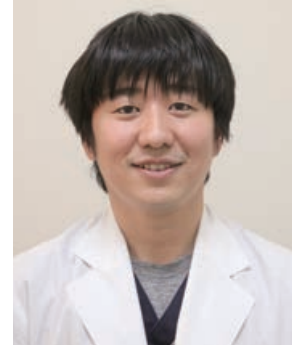
内科	月		火		水		木		金		土	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
山崎(第1)	岩崎(第3)	山崎	八木	清藤(第1-3)	山崎	八木	八木	山崎	山崎	山崎	麻生	休診
				八木(第2・4・5)								
八木(第2・4・5)												
赤川	赤尾		大畑	藤戸良輔	赤川	廣瀬	内野	交代制	交代制	交代制	交代制	休診

芸西病院

新任の挨拶

精神科医師

赤川 芳樹



皆さまお目汚し失礼いたします。

この度こちらの芸西病院にて勤務させて頂くこととなりました。赤川芳樹と申します。大崎先生のお休みの代打として、急遽こちらへお邪魔することとなり患者様、スタッフの皆様にはご迷惑をおかけしますが、なにとぞよろしくお願いたします。自己紹介文ということで中々大きなペーシジを頂いてしまいましたので、少しでもお時間をいただきますがどうぞお付き合いください。

自分はずっと東京の出身で、大学入学を機にこちらの高知県へ転居してきました。正直なところそれまでは高知県のイメージというものもありなく、どんなところだろう

うかと期待半分不安半分でこちらへ来たのを覚えていません。しかしいざこちらへ来てみると、思いのほか気候は過ごしやすく、食事も美味しく、ちゃんとインターネットも繋がっていて、街中でサギやたぬきやイノシシも観察出来る場所でした。元来東京に住んでいたという事実を全く活用できていないお家大好きな自分としては全く困ることがなく、そのままこちらへ居ついて気が付けば10年以上が経過してしまいました。

当初はヒアリングもままならなかった土佐弁も慣れたもので、今では自分も立派に土佐弁を喋っている…つもりなのですが、まだイントネーションが全く身についていないと妻からダメ出しをもらっています。また皆様からのご指導ご鞭撻を頂ければ幸いです。

ところでこの芸西病院へ異動となるにあたり、自分には一つだけ懸念点がありました。というのもこのところ年齢も相まってか体重が増加傾向にあり肝機能異常も指摘されるようになっていました。そこでこれまで勤務していた医療センターへは一念発起して自転車を通うようになり、減量に成功していました。

しかしさすがにこちらの芸西までは毎日自転車を通う決心が出来ておらず、運動量は減り、昼食は細々としたコンビニ飯からおいしい病院食に変わり、毎日舌鼓を打っております。これがリバウンドの第一歩にならないよう、皆様からどうか食事を節制する術か、はたまた自転車でこまめに通動する勇気を賜れたら幸いです。お酒は減らせる気が致しません。

こんな自分ではありませんが、今後は皆様の心の健康を支える一助となるよう、微力ながら力を尽くして参ります。繰り返し、どうぞよろしくお願いたします。



角谷看護部長 県功労賞によせて

看護副部長

西原 瑞雄



2023年11月3日、角谷広子看護部長が高知県功労者表彰を受賞されました。

県功労者表彰は、地方自治の発展その他公共の福祉に関し、特に功績の顕著な個人・団体を表彰することを目的としています。

角谷看護部長は、当院外来看護師として高齢者や精神疾患患者の訪問看護を実践、当院訪問看護ステーション開設の基礎を築き発展につなげました。

看護管理者就任後は、精神科看護テキストの執筆や、看護系学校で精神看護の非常勤講師を務めるなど、精神科看護の質の向上や人材育成に貢献されました。



また、日本精神科看護技術協会高知県支部の教育委員長、支部長を歴任し、高知県看護協会では地区理事として、地域災害支援ナース育成研修の実施や医療機関でのふれあい看護体験の受け入れに取り組みれるとともに、在宅領域看護検討委員会委員を務めるなど、地域看護の質の向上に貢献されました。

長年の看護業務の実績とご功績が認められ、保健衛生分野での栄誉あるご受賞、誠にめでとございます。各師長・主任をはじめ看護部一同、心からお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍をお祈りいたします。

第1回 芸西子どもマルシェを開催しました

リハビリテーション部 理学療法士 近藤 友香



病院の銀杏もすっかり黄金色に色づいた11月3日。仕事をするといいことがどんなことか、楽しみながら体験してもらうことを目的とした企画「第1回芸西子どもマルシェ」を開催しました。

現在、リハビリテーション部には200名以上の子どもさんたちが通院されています。これまで、就学前から小中学生たちの生活に寄り添いリハビリとして支援してきました。当院での子どもさんたちのリハビリは開始から10年経ち、当初から通院している子供たちは高校生や大学生となり、進学や就職などを含め「今後の社会生活へ繋げる」必要性ができています。

そこで、仕事をするという場面を想定した支援の必要性を感じ今年度から就労支援部

門が立ち上がりました。この部門では、学童期の早い段階から働く事の意識付けや対人、さらに金銭の大切さややりとり等就労する上で大切な事項を経験し、就労へ繋げるための一助にしたいと考えています。

今回のマルシェは3つの内容になっていました。1つ目はフリーマーケットで、子供さんたちの不要になったものを販売してもらいました。2つ目はポップコーン販売です。ポップコーンの製造・販売を通して、障がいがある方へ「働く喜び」「働く楽しさ」



の提供を目指している事業所アチエンドさんよりポップコーンを仕入れ、販売を体験してもらいました。3つ目はコーヒーやジュースなどの飲食を提供する仕事でした。どの仕事でも声掛けなど最初は慣れずに戸惑うこともあったようですが、徐々に自分から積極的に仕事をしてくれるようになっていました。コーヒーはその場で豆を挽いて提供するというこだわり。いい香りと過ごしていただけたようです。終盤にはデリバリーも行うほどの人気となりました。

企画から当日まで紆余曲折ありましたが、当日は想像以上の方に来ていただきました。

大賑わいの中、保護者の方も驚くほどに接客の声掛けができたお子さんもいます。商品の陳列も工夫して、お客さんに見やすいようにと考えてくれるお子さんもいました。

初の企画運営で不十分な点は多々ありましたが、参加して下さった方々からは楽しかった、来年も開催してもらいたいとの声をいただきました。来年も開催できるように企画していきたいと思えます。



高知新聞に掲載されました。
▲新聞記事はこちら



2023年度みずき芸術祭を終えて

精神科作業療法室
作業療法士

田野岡 宏樹

今年で3回目を迎えたみずき芸術祭が11月14日、15日と開催されました。今年度もコロナウイルス感染症の影響を受けて、観覧時間や表彰式を分けて行うといった制限がある中での開催となりました。7月から昨年度に引き続き実行委員のメンバーを中心にコツコツと準備をしていきました。芸術祭に向けて、創作活動に励まれた利用者さん、患者さん、職員の方々のおかげで今年も105点の作品を展示、鑑賞して頂くことができ本当に良かったと思います。

皆様のご協力もあり、今年の来場者数は総数164名で昨年度より多くの方が足を運んでくれており、表彰式では、院長、副院長、看護部長など各賞の職員の方が出席してくれました。受賞された患者さんは、「思いがけないことです。これからも頑張りたいです。」と笑顔で話される方や、嬉しさのあまり言葉にならず涙を流され喜ばれる方など様々な姿をみるこ



が出来て、とても良い表彰式になったと思います。

私が関わらせて頂いている認知症治療棟の作品制作の場面では、トイレットペーパーの芯を使って好きな色を塗ってもらい花火を制作しました。作業工程はシンプルで意欲的に皆さん取り組んでくれました。他患者さんの作品を見て「これは綺麗にできちゅう。」と褒め合う場面があり、

1つとして同じ花火はなく個性的な作品に仕上がりました。

今年のみずき芸術祭を振り返ると、来場された方が作品を見て称賛している姿、出展してくれた方々が受賞されて喜ばれる姿を見ると今年もみずき芸術祭をやってよかった！と心の底から思えました。また、日々の創作活動の中で制作した作品を他者から

観てもらい評価を得る機会の重要性、患者さんと職員が受賞の喜びや悔しさを共有することの大切さを改めて感じる事が出来ました。

来年度も素敵な作品を、たくさんの方々に展示していただきたいです。



令和5年度みずき芸術祭 受賞作品

- 理事長賞：精神デイケア 「夜空の華」
- 院長賞：精神OT室3Bチーム 「幸福鳥」
- 副院長賞：精神OT室 「アクエリウム」
- 岩村賞：やわらぎ2階 川越孝子 「桃源郷」
- 看護部長賞：精神OT室 M・S 「タイガ」
- 施設長賞：精神デイケア チーム支え合い隊 「春夏秋冬 心の輪」
- ギャラリー賞：やわらぎデイケア 「秋らんまん～沢山とれて芋っちゃうな！～」



今年も県立美術館で開催された第27回スピリットアート展に、精神デイケアと精神OT室から作品を出展しました。絵画・工芸・立体作品部門で多数の作品が入選し、芸西病院3Bチームが作成した『幸福鳥』は褒状という大変名誉ある賞を頂いております。先日、3B病棟では、スペシャルゲスト(石村久先生)に来ていただいて、ささやかながらあたたかい雰囲気の中で祝賀会を開催し、皆で受賞を喜び合いました。



第27回スピリットアート展

3Bチーム「幸福鳥」褒状を受賞!

精神科作業療法室 主任 作業療法士 石丸 真由美



「事实は小説より奇なり」

リレーエッセイ No.76

検査室 臨床検査技師 星野 由衣

私は、本の世界に浸ることが大好きな子どもでした。幼い頃から家には沢山の絵本、辞書、漫画や小説があつて、小学校に入ってから毎日のように学校の図書館へ通っていました。小学校高学年にもなると自分で小説や漫画を描いて仲のいい友達に披露したりして、今思えば結構恥ずかしいことをしていたな…なんて考えたりもしますが、いい思い出です。

大人になってからも読書が好きで、ファンタジーやミステリー、自己啓発本など気になった本はジャンル問わず読んできましたが、三年前に子どもが生まれてからは全く本を読まなくなりました。読む本といえば子どもが保育園で借りてくる絵本くらいです。たまにはゆっくり本を読みたいと思うこともありすが、三歳の娘はママが大好き。おままごとやお医者さんごっこに始まり、歌ってみたり踊ってみたり、何でもママと共有したいお年頃。まだまだゆっ

くり本を読めそうにないな、と思う今日この頃です。
私の好きな言葉の一つに「事实は小説より奇なり」という言葉があります。イギリスの詩人の作品の一節から生まれた表現で「現実の世界で実際に起こる出来事は、空想によって書かれた小説よりかえって不思議である」ということわざです。子どもが生まれてからは特に驚きや感動の連続で、この言葉を痛感しています。



本の中の主人公のように、仲間を集めて冒険したり、魔法が使えたり、世界を救ったり…：そんな大それたことはできないけれど、私は私にしか描けない未来を精一杯描いていきたいと思えます。

やわらぎ通信

リゾートビルやわらぎ
運営理念
その人らしさを尊重し
人と人のつながりを大切に
明日につなげるケアをめざす

感染症・自然災害対策強化次なるステージへ 令和六年 新春

施設長 中本 雅彦

新年あけましておめでとうございます。旧年中はコロナ禍クラスターでの幕開けから長引く原油高騰・物価高騰と、かつてない厳しい一年間でした。日ごろお世話になっております皆様も同様な厳しさの中で新年をお迎えのことと存じますが、どうか笑顔で、「笑う門には福来る」を心よりお祈り申し上げます。新たな一年、ご利用者ご家族、地域の皆様と真摯に向き合い、一日一日を大切に、共に歩むやわらぎ運営に精進して参ります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



さて、この春以降、医療・介護・障がいに関する報酬改定と法制度改定等、生活に身近な社会保障制度が多岐にわたり改定されます。その中の一つ、介護施設の運営管理につきまして、感染症や自然災害に備え、「もしものとき」に老健施設としての入所・短期入所・通所事業を継続できるよう、平時から必要な準備体制(ヒト・モノ・情報等)を整備することとなりました。感染・自然災害・サイバーテロなど、事業継続を困難とするあらゆるリスクに備え、事業を可能な限り早期に復旧・継続する計画を事業継続計画(BCP)といたします。



当施設の自然災害に備えるの訓練としては、安芸消防や芸西村、民生児童委員さん方のご協力の下、年数回の地震豪雨火災訓練を実施しています。更に昨年9月末には、県内の介護施設としては初となり「全国大規模地震時医療活動訓練(南海トラフ大地震)」に参加しました。当施設には北里大学病院(神奈川県相模原市)所属で日本DMATインストラクターの梶山氏が現地コントローラー(指導助言者)として来場されました。芸西村関係部署の職員さん6名、当施設職員含め計15名が二日間にわたり自然災害への平時の備え、災害発災時の初動対応から事業継続に必要な備えに関して学び、多くの気づきが得られました。

現在、私たちは災害対策マニュアル及び自然災害BCPの見直しに取り掛かっています。マニュアル・BCPに完成はありません。「時の流れと共に変化する人・もの・情報・自然のあり様」によって、随時見直しを繰り返しながら、来る災害に備えていきたいと考えます。

令和5年度 高知県介護老人保健施設協議会 フリーフティングケア基礎研修会 inリゾートビルやわらぎ

施設長 中本 雅彦

今年度の高知県介護老人保健施設協議会(当施設が会長・事務局担当)では、すべての会員施設でのフリーフティングケア実践の実現に向け、「オール老健100%フリーフティングケア!」をキャッチフレーズに、県内3カ所にて基礎研修会を開催しました。研修事業を引き受けて下さった一般社団法人ナチュラールハートフルケアの福島さんをはじめ関係者の皆様には心より感謝申し上げます。

フリーフティングケア研修に参加して

リゾートビルやわらぎ2階 看護師 小田 邦子

今回初めてフリーフティングケア研修に参加させて頂き、当施設のフリーフティングケアの取り組みについて改めて考える良い機会となりました。「フリーフティング宣言」をした根底には当施設においても職員の高齢化が進み、若い職員の減少が見られている状況から、腰痛の悩みをもつ人や腰痛のために休養を必要とする人、病院受診が必要な人が現場において増加傾向にあり、そうした現状から全職員が「少しでも長く、安全に、健康上の不安をなくして働けるようにする」ことを目的に掲げられたものであることを再度認識する事ができました。また、この研修は「フリーフティングマイスターの養成研修」でもあり、まず何から始めたら良いのか、段階に応じて具体策が計画立案されていました。職員一人一人が意識改革でき、各自がリスクマネジメントを実践できるようにプログラムされており、業務の中で感じるリスクやヒヤリハットを集めて、それを解決するPDCAサイクルを回す体制作りが急務であることが分かりました。その為、先日腰痛予防対策委員会にて、構成組織図に則って各委員会メンバーの役割を決定した所なので、組織としても個人の役割においても実践しなければならぬ内容が明確となり、理解する事ができました。今後はマイスターとしての役割を果たすべく、現場でフリーフティングケアが定着できるよう努めていきたいと思っております。



楽々介護教室の講師を経験して

通所リハ 介護福祉士 西山 智佐子

令和5年 11月8日(水曜日) 芸西村村民会館において第3回楽々介護教室「入浴と着替えのケアのポイントについて知ろう」についての講演会に通所リハビリテーションを代表して田中・西山の2名で参加してきました。なにぶん大勢の前で話をするのは大の苦手であり「手に汗・足はガクガク」「緊張」「心臓はバクバク」と、立っているのもやっとでしたが、参加して頂いた村民の方々の温かいお心遣いで、何とか乗り越えられました。私にとっても貴重な体験をさせてもらい地域に寄り添い、笑いを入れながら無事終える事が出来ました。日々デイで当たり前のように入浴・更衣援助と行っていました。話をする中で気づきも多く改めてケアの大切さを再確認することができました。これから寒い冬になる事もあり個々の利用者の体調管理等変りないか確認し、これからも利用者さんが在宅でその人らしく生活できるよう寄り添ったケアを提供していきたいと思っております。ご来場頂いた村民の方々と地域貢献できありがとうございました。

地域貢献活動

芸西村認知症講演会 9月28日

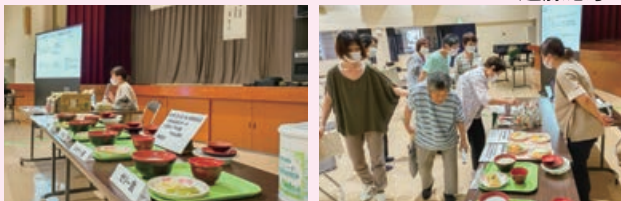
講師:芸西病院副院長・
リゾートヒルやわらぎ認知症専門棟医師 大畑貴裕



第1回楽々介護教室 8月23日

「介護の食事について知ろう！」

講師:管理栄養士 栄養課主任 近藤恵子



第2回楽々介護教室

10月11日

「排泄ケアについて知ろう！
うんちとおしっここのいい話」

講師:看護師 総師長 野町清佳



第3回楽々介護教室 11月8日

「入浴と更衣のケアのポイントについて知ろう！」

講師:介護福祉士 通所リハ主任 田中淳一
介護福祉士 西山智佐子



芸西村地域リハビリテーション事業「ほっと★リハ」

10月25日

講師:理学療法士 橋本玉姫・近藤宏哉



芸西村民生児童委員「人生会議って!?基本編」研修会

11月28日

講師:施設長 中本雅彦



ソーシャルワーク実習を終えて

高知福祉専門学校 社会福祉学科 城山 美咲

私は、8月28日から9月28日までの1ヶ月間ソーシャルワーク実習をさせていただいた高知福祉専門学校社会福祉学科の城山美咲です。私は社会福祉士の関わり・役割について知ること、ご利用者の方・ご家族との関わり方について理解を深めることを実習目標としてあげていました。今回の実習を通して、社会福祉士(相談員)の方と行動を共にさせていただいたことで、どのような役割を施設の中で担っていて、どのような思いでご利用者の方・ご家族の方と関わりを持っているのかを知ることができました。またご利用者とのコミュニケーションにおいては、ご利用者の方の世代で起こった出来事・流行ったことや地域(芸西村)ならではのことに触れることも会話の内容の1つとしてあることやご家族の方との連絡方法についても1つではなく直接・連絡帳・電話などの様々な方法があることを知ることができました。様々な経験・体験をさせていただいて、とても濃密な期間を過ごすことができました。今回の実習で明らかにになった課題を改善できるように学んだことをこれから活かしていけるように頑張っていきたいと思えます。本当にありがとうございました。



車両寄贈のお礼

岩村久医師（芸西病院前院長）より、やわらぎでの送迎・在宅支援の充実に活用をと、車いす対応の軽自動車2台をご寄贈いただきました。心より感謝申し上げます。



クラブ活動

釣りクラブ



ご利用者からは不動の人気クラブとなっている釣りクラブ、天候等の理由から海釣りは十月最後となりました。十二月は昨年のしめ縄づくりにヒントを得てクリスマス飾りのリースづくりを行いました。竿をリースに持ち替えて彩り豊かな個性あふれるリースが完成、「妻へのプレゼントや」と笑顔で持ち帰るご利用者でした。

園芸クラブ



硬筆クラブ



生花クラブ

行事

バスレク



食欲の秋



クリスマス会



無我夢中 43

やわらぎ2階
介護福祉士 大野 真奈



私が、これから無我夢中になっていく事は、スノーボードです。
地元にはスキー場があり、気になってはいたものの実際に行ったことは無かったのですが、一昨年の冬に友人に誘われ、行ってみました。すると、想像していた以上に難しかったです。何回か滑っていくうちに夢中になり、次第にスノーボードにハマっていききました。

去年のシーズン中は、学生だったこともあり、時間に余裕があったため、たくさん滑りに行きました。ですが、社会人となり、今年は気温が暖かかった時期が長かったため、その影響などで雪があまり積もらず、オープンする時期が遅れたりして滑りに行ける機会が去年より減るかもしれません。ですが、行ける時間などが取れば、出来るだけたくさん滑りに行けたらいいなと思っています。
また、今までは自分専用の板は持っていなかったのですが、今年からは、自分専用のスノーボードの板を買い、マイボードでたくさん滑りたいと思います。
これまでは、地元のスキー場でしか滑ったことが無かったので、今シーズンは県外のスキー場にも遊びに行き、けがなく楽しく滑っていききたいです。

